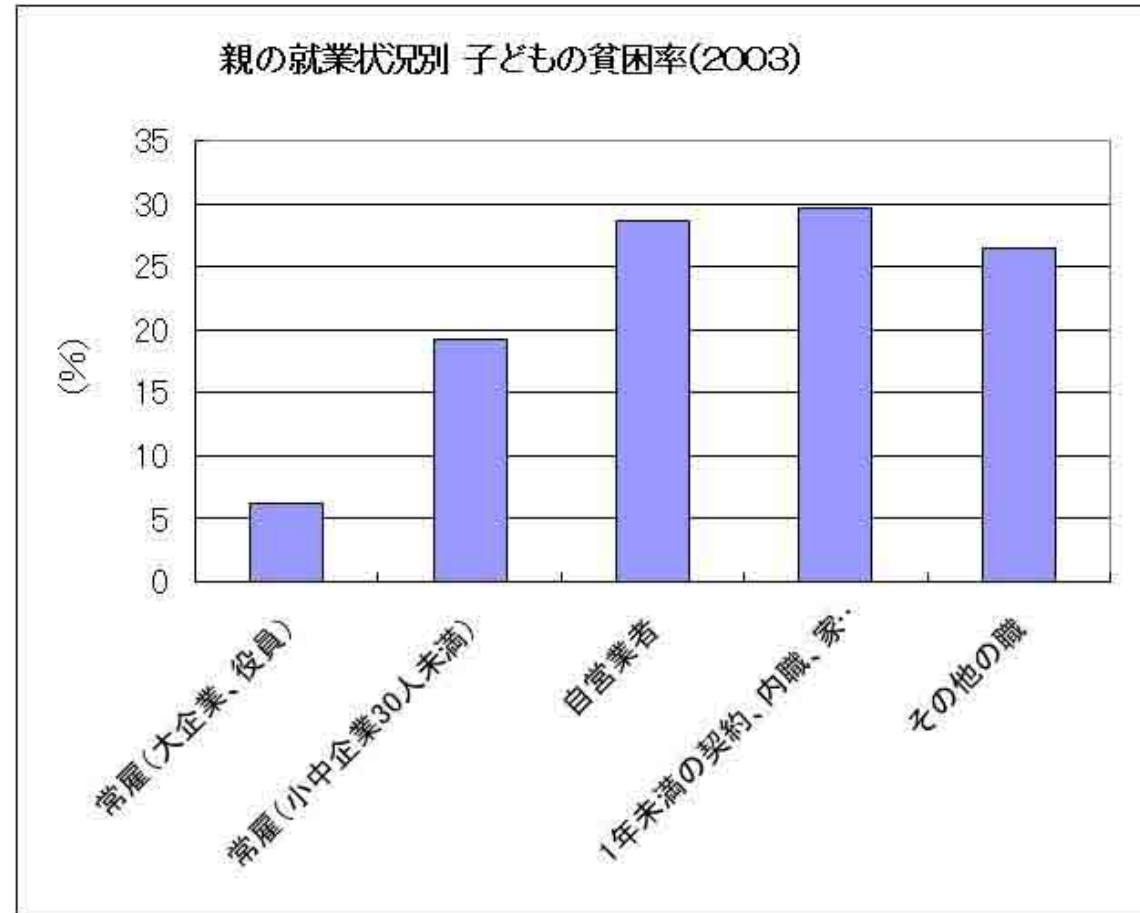
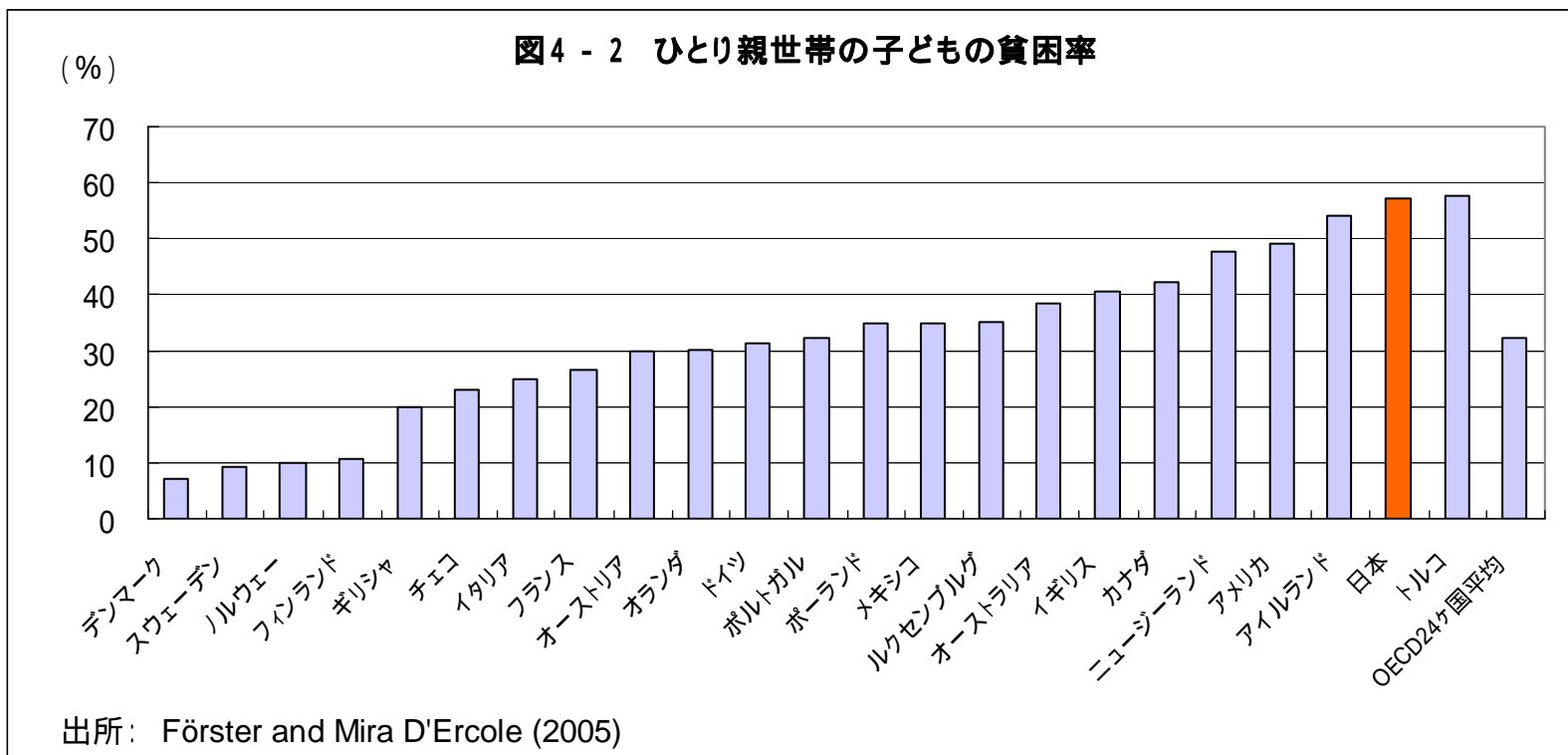


親の就労形態別 貧困率



注:世帯内の最多稼得者の就業状況。無職は省略。出所:阿部(2008)『子どもの貧困』

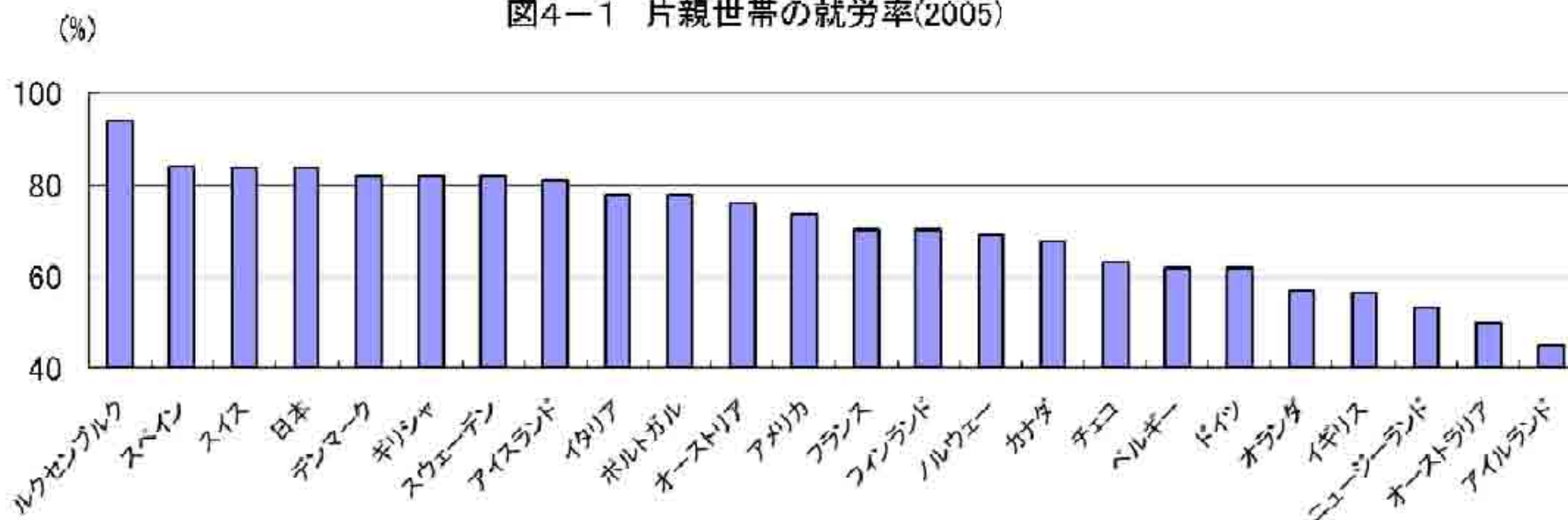
母子世帯の貧困率は最下位から 2 番目



- 注: データは2000年頃のもの。

母子世帯の就労率は非常に高い

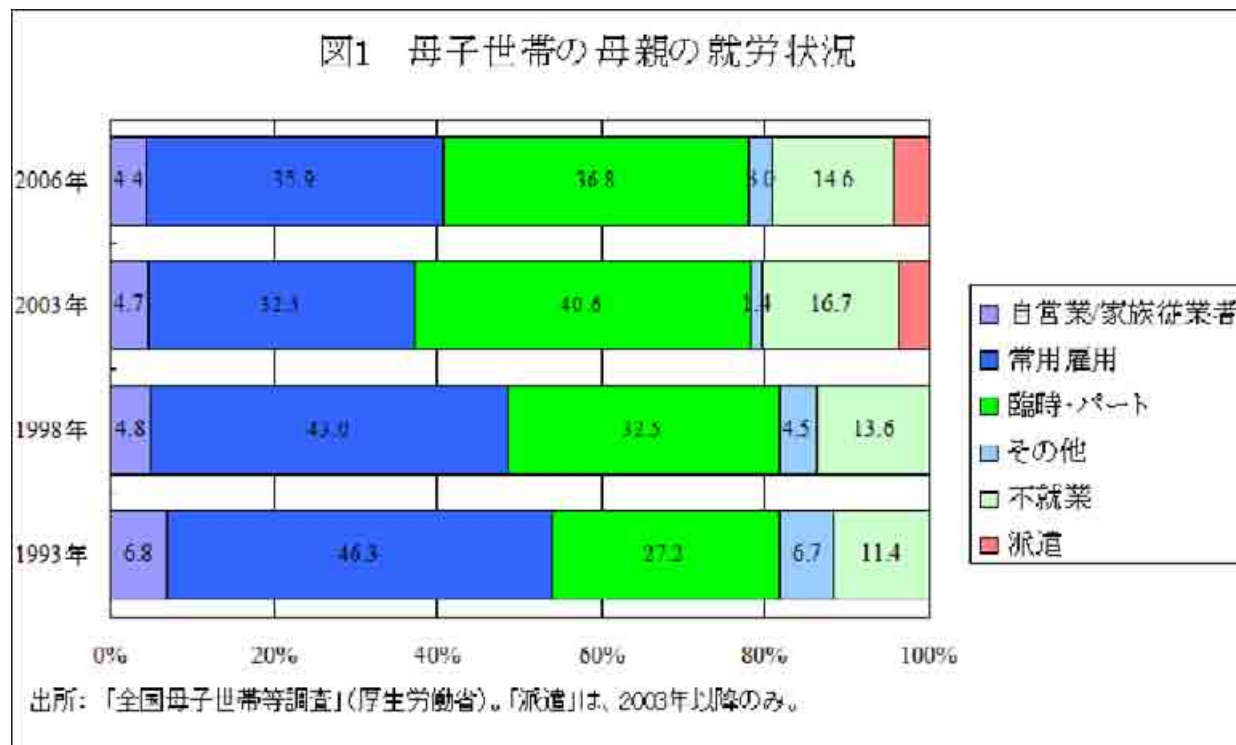
図4-1 片親世帯の就労率(2005)



出所:OECD(2007)

- 日本の母子世帯の特異性を一文にまとめるのであれば「母親の就労率が非常に高いにもかかわらず、経済状況が厳しく、政府や子どもへの父親からの援助も少ない」。

母子世帯の雇用状況の悪化

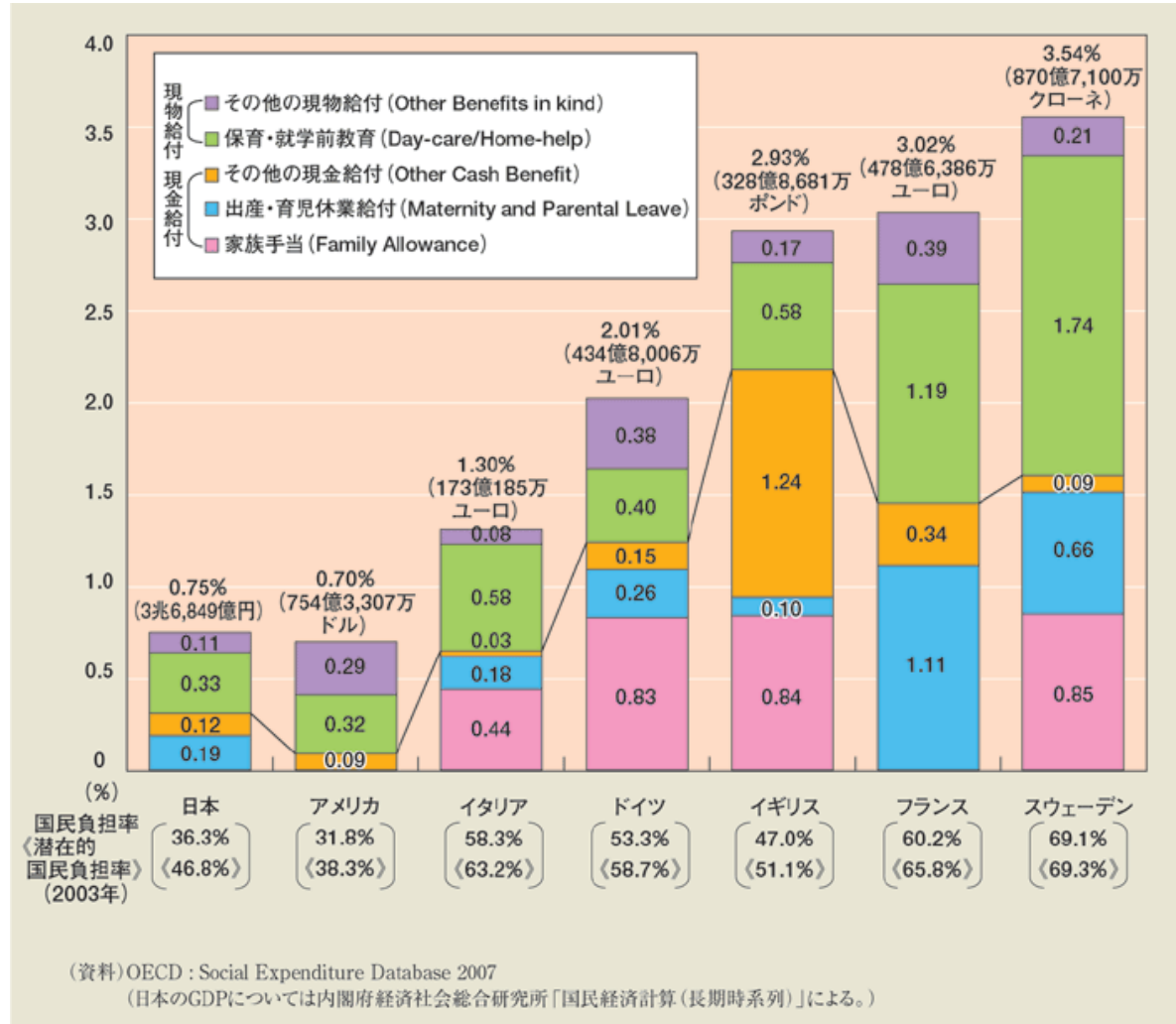


- 常用雇用の減少。臨時・パート、派遣の増加。
- 不就業も増加傾向

子どもの貧困に対して国ができること

1. 国によって、子どもの貧困率は大きく異なる
 - 単なる国の経済レベル（GDPなど）の違いではない
 - 一つの関連は「1人親世帯」の割合。しかし、これですべては説明できない
2. 「政策」が子どもの貧困率に大きく影響する
3. 日本の特徴
 - 母子世帯を始め、「特定世帯」の貧困率が突出
 - 政策による貧困削減効果が少ない
 - 女性の就労による貧困削減効果が少ない

「家族関連給付」の国際比較



出所: 内閣府(2008)『少子化社会白書平成20年版』